

1. 化学品及び会社情報

2. 危険有害性の要約

健康に対する有害性

環境に対する有害性

: 生殖毒性・授乳影響
特定標的臓器毒性(単回ばく露)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)
誤えん有害性
水生環境有害性 短期(急性)
水生環境有害性 長期(慢性)
オゾン層への有害性

分類できない
分類できない
分類できない
分類できない
分類できない
分類できない
分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報
注意書き

: 警告
: 飲み込むと有害
: 【安全対策】
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
【応急措置】
飲み込んだ場合:気分が悪いときは、医師の診断・手当てを受けること。
口をすすぐこと。
【廃棄】
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に
業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名、別名
成分及び含有量
(肥料の品質の確保等に
関する法律に基づく表示)

: 混合物
: 指定配合肥料
: 窒素全量(TN) 9.0 %
内アンモニア性窒素(AN) 5.1 %
りん酸全量(TP) 2.0 %
水溶性加里(WK) 1.0 %

危険有害成分

:

成分	含有量(%)	PRTR法 政令番号	安衛法通知 政令番号	化審法官報 整理番号	CAS番号
硫酸第一鉄・七水和物	1.17	該当なし	352	1-359	7782-63-0

その他特記事項

: サッチを分解する2種のバチルス属細菌を混合

4. 応急措置

吸入した場合

皮膚に付着した場合
目に入った場合

飲み込んだ場合

: 直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、安静、保温に努め、速やかに
医師の手当を受ける。
: 水で洗い流す。
: 水で数分間洗浄ののち、痛みがある場合は直ちに眼科医の手当を受
ける。
: 水でよく口の中を洗浄する。可能であれば指をのどに差し込んで吐き
出させ、直ちに医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 周辺の火災状況により、適切な消火剤を使用する。
- 使ってはならない消火剤 : なし。
- 特有の危険有害性 : なし。
- 特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 : 周辺火災に応じて適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時処置 : 適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用する。
- 環境に対する注意事項 : 公共用水域に流出しないように留意する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : シート等で覆いをして、飛散拡大の防止を図る。固体は掃き集めて回収する。
本製品が付着したものは、廃棄上の注意の項に従って廃棄する。
- 二次災害の防止策 : 床面に残るとする危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
 - 技術的対策 : 取扱いは、換気の良い場所で行うことが望ましい。
必要に応じて適切な保護具を着用し、容器は丁寧に扱うこと。
 - 安全取扱注意事項 : 粉じんを吸入しないこと。
取扱い後は、使用した保護具、手、顔等をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- 保管
 - 安全な保管条件 : 雨、直射日光と高温・高湿を避け、乾燥した換気の良い場所で保管すること。
開封したまま放置すると吸湿して固結するおそれがあるので、使用後は密封して保管すること。
 - 安全な容器包装材料 : 破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)
 - 日本産衛学会(2020年) : その他の無機及び有機粉じん(第3種粉じん)
吸入性粉じん 2.0mg/m³
総粉じん 8.0mg/m³
 - ACGIH(2020年) : 設定されていない。
- 設備対策 : 作業場に手洗いの設備を設置し、位置を明確にしておく。
換気を良くし、粉塵の飛散を防止する。
- 保護具
 - 呼吸器の保護具 : 防塵マスク
 - 手の保護具 : ゴム手袋
 - 眼の保護具 : 保護眼鏡
 - 皮膚及び身体の保護具 : 定められた作業衣、安全靴

9. 物理的及び化学的性質

物理状態、色	: ペレット状
臭い	: 有機臭
融点／凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界／ 可燃限界	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: 6. 6～7. 0
動粘性率	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール／水分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び／又は相対密度	: 0. 77～0. 80(かさ比重)
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の取り扱い条件(常温)では安定。
化学的安定性	: 通常の取り扱い条件(常温)では安定。
危険有害反応可能性	: 強アルカリ性資材との混用や加熱により、アンモニア等の有害ガスを発生する可能性がある。 吸水した製品を放置すると発酵し、熱をおびる。
避けるべき条件	: 強アルカリ性資材との混用 加熱・燃焼 粉じんの拡散 湿気
混触危険物質	: 強塩基性物質
危険有害な分解生成物	: アンモニア、窒素酸化物、りん酸化物、硫黄酸化物、一酸化炭素、 二酸化炭素、ばいじんなど

11. 有害性情報

急性毒性	: 情報なし
皮膚腐食性／刺激性	: 情報なし
眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性	: 情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 情報なし
生殖細胞変異原性	: 情報なし
発がん性	: 情報なし
生殖毒性	: 情報なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 情報なし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 情報なし
誤えん有害性	: 情報なし

《本製品の構成成分である硫酸第一鉄・七水和物に関するもの》

急性毒性(経口)	: GHS分類: 区分4 マウスのLD50値として1,520mg/kgの情報に基づき、区分4とした。
急性毒性(経皮)	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
急性毒性(吸入:気体)	: GHS分類: 分類対象外 GHSの定義における固体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	: GHS分類: 分類対象外 GHSの定義における固体である。
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
発がん性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
生殖毒性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。
誤えん有害性	: GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	: 情報なし
残留性・分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
土壤中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 情報なし

《本製品の構成成分である硫酸第一鉄・七水和物に関するもの》

水生環境有害性 短期(急性)	: GHS分類: 区分3 甲殻類(オオミジンコ) EC＝91mg/L/48H
水生環境有害性 長期(慢性)	: GHS分類: 区分3 金属化合物であり水中での挙動および生物蓄積性が不明であるため、区分3とした。
残留性・分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
土壤中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 肥料として農作物に適量撒くか、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って廃棄する。
汚染容器及び包装	: 内容物を除去し、関連法規並びに地方自治体の基準に従い適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制	: 該当しない
国内規制	
陸上規制情報	: 道路法に従う
海上規制情報	: 船舶安全法、港則法に従う
航空規制情報	: 航空法に従う
輸送又は輸送手段に関する 特別の安全対策	: 直射日光を避け、容器の破損・漏れ等の無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。雨天時は防水シート等で覆いをする。

15. 適用法令

肥料の品質の確保等に関する法律	: 指定配合肥料(肥料公定規格)
環境基本法	: 水質汚濁に係る環境基準(法第16条、昭46環告59) (生活環境の保全に関する環境基準 全窒素、全リン)
労働安全衛生法	: 名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、令第18条の2) (政令番号 第352号 鉄水溶性塩)
化学物質排出把握管理促進法	: 該当しない

16. その他の情報

参考文献

1. 15509の化学商品 2009年 (化学工業日報社)
2. 国際化学物質安全性カード(国立医薬品食品衛生研究所)
3. GHS分類結果データベース(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
4. GHSモデルSDS情報(厚生労働省 職場のあんぜんサイト)

記載内容のうち、含有量、物理化学的性質等の数値は、保証値ではありません。
危険有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありませんので、取扱いには充分注意してください。
注意事項等は通常的な取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いの場合には、その時点のご配慮をお願いします。